

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	地域の行事(花見大会、お祭り、地藏盆、防災訓練)等に参加しながら地域の方との交流に努めている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	昨年と同様、敬老会に参加して頂いたり、餅つき大会にも参加して頂く予定である。小学校での認知症勉強会にも老人会会長さんも参加して頂くことが出来た。今後も行事の度に声かけをさせていただきながら、交流を図っていきたいと思っている。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	地域の行事へは可能な限り、参加させていただきながら、地域の中でも安心して認知症の方が暮らし続けるように、地域の方への認知症の理解をして頂けるようにまず、11/28小学生を対象に勉強会を施行した。今後も地道に勉強会を開催したり、相談を受けて行きたいと考えている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	地藏盆のさいには、子供達が裏庭で花火をしてくれ、交流が来ている。今年は小学校にて認知症の勉強会に取り組み、子供達の施設見学も施行出来ている。今後も地道に働きかけながら老若男女を問わず、誰もが訪れやすい施設を目指して行こうと考えている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	今後も、継続して、地域の行事に参加させていただきながら、地域の中に溶け込み、地域の皆さんが訪問しやすい関係作りに努力していききたいと思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>地域の皆さんに認知症を理解していただき、地域で支えていけるように、今後も学習会を開く予定。施設を使っただきながら、今後も暮らしに役立つ研修会を計画するつもりである。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>自己評価表を全員のスタッフに把握して頂くと言うことではまだ徹底出来ていないので、職員会議を利用して全員に把握してスタッフ全員で前向きに取り組んでいけるようにしていきたいと考えている。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>今後も会議のたびに報告を行いながら、推進委員さんの要望などを可能な限り取り入れ、話し合いを深めていきたいと思っている。又職員にも徹底して報告し全スタッフで何事にも取り組んでいければと思っている。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>市が主催される会議や交流会などは今後も可能な限り参加させていただきながら、市の担当者とは今後も何もなくとも連絡をとりあわなければと思っている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>後見人制度を利用しておられる方が1名おられるが、医療的な事に対する権限がないとの事で今後、予測される事を視野にいれながら、連携、協力していかなければならない。その為にも今後勉強会を重ねながら学びを深めたいと思っている。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>ストレスの多い認知症介護の実践現場をしっかりと把握しながら、職員の抱えるストレスを早目に気づき、もし察知したなら速やかに対応して行こうと思っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は十分に時間を取り、質問に答えている。その場では充分でない場合は、いつでも時間を作るようにしている。現在の所解約に対する内容はなし。</p>	<p>○</p> <p>利用者や御家族が何でも言ってお下さる様に普段からの関係作りが重要だと思う。御家族の面会時は可能な限り必ず声をかけさせていただき、話をするようにしている。年1回の家族会総会でも意見を言ってお下さるように働きかけている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者の精神不穏の気分の波は時々あり、不満を言われ続けられる時があるが、その都度傾聴しながら、対応させて頂いている。開設してから、入居者会議を2回施行。希望はあったが、不満の意見はなく、もう少し意見が言えるように導いた方が良かったのかもしれない。介護相談員さんの受け入れの実施。苦情箱の設置は継続している。</p>	<p>○</p> <p>入居者会議をもう少し定期的の実施出来る様にして行くことを今後の課題としたい。普段からの関係作りを大切にご利用者の訴えはよく聞く姿勢を今後も継続する。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月請求書と一緒にその月の行事の写真と状態、金銭預かり出納張の写しをお知らせさせて頂いている。入居以来毎月実施している。職員の異動のお知らせに関しては年1回の総会時に報告させて頂いている。</p>	<p>○</p> <p>今後も連絡表、金銭報告は継続して実施予定。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情や御意見は常時受け付けている。入居時の重要事項説明書に市町村、国保連の苦情受け付け電話番号等を明記している。</p>	<p>○</p> <p>今後も御意見や苦情が発生したら真摯に受け止め、前向きに対応させて頂くつもりである。内容によっては市にも報告。運営推進会議においても報告するようにする予定である。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>普段から職員の意見は耳を傾けるようにしている。毎日の朝の申し送り後のミニカンファレンス、毎月の職員会議には職員の意見を聞き可能な範囲で対応している。</p>	<p>○</p> <p>今後も左記の内容を継続し、時には個人面談も行いながら、職員が前向きな意見を言える環境づくりをしていきたいと思っている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>現在、比較的人員数には恵まれているので、柔軟に対応が出来る。</p>	<p>○</p> <p>今後の御利用者の状態の変化に応じて、必要な時間に人数を置けるように常時シフト改善はしていくつもりである。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の適性は常に見極めながら、常にご利用者の事を考慮した異動を考えなければと思っている。</p>	<p>○</p> <p>職員の異動が原因でご利用者に迷惑をかけるということは可能な限り、避けて行きたい。異動があるならば、内容のある異動でなければならぬと考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修は積極的に受講して頂けるように常に指導している。認知症実践者研修は毎年受講。法人内でも定期的な勉強会の実施。法人全体での研修会も実施している。</p>	<p>○</p> <p>人材育成は、継続的に取り組まなければいけない事を認識し、今後も積極的に研修の参加や施設内研修の充実を図っていこうと思っている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>北部グループホーム連絡会に加入し定期的な研修や交流の場に積極的に参加している。</p>	<p>○</p> <p>北部グループホームは京都市から中丹、南丹、丹後地方までに及び、範囲も広い。もちろん今まで通り、各研修会等に参加しながら将来的に舞鶴市のグループホーム連絡会を設立し、舞鶴市のネットワーク作りが出来たらと思っている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスの原因も人によって様々であるが、認知症介護におけるストレスは図り知れない事を認識し、介護される側もちろんの事介護する職員の事も常にねぎらい、理解する事が大切だと思っている。不平、不満の多い職員に対しては徹底的に話し合いを持っている。</p>	<p>○</p> <p>認知症介護のストレスも理解しながら、職場の人間関係が円滑な事が、一番大切であると思っている。完璧にはいかなくても、常に良い関係目指し楽しい職場作りに今後も努力していこうと思っている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>常に管理者から職員の事は報告を受けながら、頑張っている事に対しては評価を口に出していきたいと思っている。</p>	<p>○</p> <p>左記の事を実行しながら、意欲を向上させる為に必要な支援をもち続けたいと思っている。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホームの場合は御本人が納得して入居されてくる場合が少ないので、ご利用前の情報収集を出来る限り一つでも多くする事を心懸け、センター方式シートを利用してご本人の思いや望んでいる事を把握する努力をしている。</p>	<p>○</p> <p>ホームの努力目標としてご利用者と関わる努力をしてその思いに気づいていくと言う事を上げている。出来る限り良い関わりをしていき、本人の思いが言え、又うまく言えない人へは気づける努力をする事が必要だと思っている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご利用前の面談は時間をかけ、ゆっくりと話をさせていただき努力をしている。ご利用後も常に誠実に対応する事を心がけさせていただき事は継続している。</p>	<p>○</p> <p>今後も面会時の会話は必ず行う事や、ご利用者さんに何かあれば速やかに報告し、常に連絡、報告、相談をしながら、誠実に対応させていただこうと思っている。</p>

ハーモニーグループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みに来られる方は余裕を持って申し込まれる人は少なく、在宅で困っておられる方がほとんど。グループホームの入居までには相当な待機日数である事から、認知症対応型の通所、短期入所、老健の申し込み、他のグループホームへの入居申し込みなどを説明させて頂いている。	○	今後も左記の様に申し込みをして頂くだけでなく、色々なサービスがある事を説明させていただこうと思っている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症の方はその時は納得されても、時間の経過とともに納得も薄れてしまっているのが現状である。十分な納得は無理としても場所の雰囲気徐々に慣れて頂く事は良いことだと思っている。可能であるなら、入居前に遊びに来ていただきながら、顔見知りになっていければと思っている。	○	馴染みながらサービスを利用して頂く事は理想であると思う。今後も可能ならば、その方向でいければと思っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症ケアの基本的な態度としてスタッフ全員が認識し、一緒に生活している。	○	今後も一緒に過ごしながら相互で支え合える関係作りに努めて行ければと思っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	何事にも御家族を巻きこまして頂きながら、一緒に考え、ご利用者を支えて行く努力をしている。	○	今後もどんな事も御家族に報告しながら、一緒に考えて行こうと思っている。その為にも普段からの信頼関係を築けるように努力していきたいと思っている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	在宅におられる時は家族関係が悪く、事務的な付き合いであった方が、入居後はお互いに感謝の気持ちを口にされるようになっていく。入居したことで、より疎遠になるのではなく、こちらから働きかけて、行事等に参加して頂き、楽しい時間を持って頂いている。何よりグループホームで落ち着いて過ごされる、精神的に落ち着かれる事で関係も良くなると考えている。	○	今後も家族関係が良い状態になるように、支援していき、こちらの働きかけが御家族や御本人の負担にならないように配慮していこうと思っている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの場所や、人達をしっかり把握できる様に情報収集する努力をし、可能無限りその関係が継続出来るように努力している。	○	今後も馴染みの関係を知る事に努力しながら、継続出来るように支援していこうと思っている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	集団生活の中で、時々のもめごとや、好き嫌いは仕方のないことだと理解し、9人のそれぞれの方が持ち味を發揮しながら一緒に生活出来るようになられたと感じている。職員は常に見守りながら皆さんが仲良く暮らせる努力をしている。	○	常に孤独感に陥られる御年寄りに対して、今後も公平に関わり良い関係が築けるように努力して行こうと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在1名の退所者がおられるが、情報を得る事の出来る状態の方のため娘さんから常に報告を受けている。	○	在宅復帰に対しては色々と考えていかなければいけないと思っている。今後も在宅復帰もあきらめず、視野にいれながら御家族との関係作りに努力していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	当グループホームは処遇方針にも上げているように常に本人の思いとその人らしさを考えケアの方向性を検討している。	○	今後もあくまでもご利用者本位に考え、その為に私達に出来ることをカンファレンスの機会を持ちながら前向きに取り組んでいきたいと思う。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートを用いて左記の事の把握に努めている。	○	今後もセンター方式のアセスメントシートを利用しながらスタッフ全員で検討しご利用者の事を知る努力をしていこうと思っている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式シートを用いて左記の事の把握に努めている。	○	今後もセンター方式のアセスメントシートを利用しながらスタッフ全員で検討しご利用者の事を知る努力をしていこうと思っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎朝のミニカンファレンス、毎月の職員会議でケアについて討議している。ケアプランの作成に関してはご利用者の意見を聞きながら、受け持ちスタッフと計画作成担当者が作製している。御家族の意見は面会時になるべく話をさせていただきながら意見を取り入れさせていただいている。	○	場合によっては、話し合いの時間が取れないこともあったので、今後は定期的、状態の変化時に速やかに対応していきたいと思っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況に応じて対応はさせていただいているが、記録面の充実を考えると不十分で検討課題を残している。	○	状況に応じた速やかなケアプランの作成は課題として残っている。追いついていないのが現状である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録用紙を独自のものを作成し利用している。状況から考えられる事の記載が徐々に増えてきており、ただ事実の記録だけでなく、考えられるようになってきていると感じている。	○	今後も記録を書きながら多方面からご利用者を観させていただくこと、そして今後につなげられる内容になることに努力していきたい。今後はチェックリストを利用し、内容の合理化を図っていく予定である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとしての機能は、まだ通所や、短期入所は利用していただけていないが、併設のディサービスの行事の時には一緒に参加させていただいている。	○	将来的には、短期入所や通所サービスも導入し、在宅支援の取り組みをする予定である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	昨年と同様民生委員さん、町内会長さん、老人会長さんには定期的に施設の状況を報告させていただきながら、緊急時の応援等お願いさせていただいている。又小学生にも認知症の理解をしていただき、お年寄りに優しい街づくりを目指している	○	今後も少しずつ地域の方に認知症の理解をしていただき、町全体で支えていけるように啓蒙活動を行う予定である。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在の所、他のサービス利用の意向等はないが、希望があるならば、いつでも話し合い、希望に沿う予定である。	○	左記同様、ご本人や家族の要望に今後も耳を傾け対応させていただくつもりである。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要であれば、包括支援センターとの協働も考慮していかなければいけない。現在の所利用なく、連携の面で希薄になっているのが現状である。	○	現在利用がないが、連携の面では今後、考えていかなければいけない課題である。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在も入居前からかかっておられる主治医に受診していただいている。	○	今後も今までの主治医へ受診して頂けるように援助し、あくまでもご本人やご家族の希望を優先させていただく。

ハーモニーグループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>特に認知症に対する専門医の診察が必要な場合は受診を行っている。</p>	<p>○</p>	<p>今後もグループホームの主治医と相談しながら必要時は専門医に受診していこうと思っている。</p>
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>常勤看護師1名、パート看護師1名にて日々の健康管理に努めている。母体が医療法人の為緊急時の連絡体制は出来ている。</p>	<p>○</p>	<p>現在1/Wの往診を受けながら、健康管理中。今後も継続して医療との連携を密に持ちながらご利用者の健康管理に努めていきたいと思う。</p>
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>開設後まだ入院された方はいらっしゃらないが、もし入院される状況になった時はご利用者が一番良い状況で治療を受けられるようにしていきたいと思う。又不必要な入院をされないように早期に受け入れを出来るようにもっていききたいと思っている</p>	<p>○</p>	<p>今後医療の必要性がでてこられるご利用者ばかりだと思われるので、健康管理に努めながら家族やご本人の意見を尊重し、その方にとって一番良い方法を考えていきたいと思う。</p>
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時の説明の際重度化した時の終末期に向けた指針をご家族に説明し、ご家族の思いも聞きながら同意をいただいている。</p>	<p>○</p>	<p>重度化や状態の急変があった場合は密にご家族と連絡報告しあい、ご利用者にとって一番良い方法を取らせていただきたいと思っている。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>医療連携、看護職の確保、介護職の医療知識の勉強会を計画しながら、ご家族の協力も得ながら最大限の努力をする覚悟は出来ている。</p>	<p>○</p>	<p>まだ幸いな事にターミナルは迎えていませんが、今後の可能性は大きいと思われる。スタッフが全員協力してその人にとって安らかで苦痛が最低限となり、穏やかな最期を迎えられるように援助していこうと思っている。</p>
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>現在対象者はおられないが、ホームを退所し次の場所が今の状況より良い状況となる事が望ましいと思っている。そのため努力はしていこうと考えている。</p>	<p>○</p>	<p>自宅や、ご本人の希望の所へ移動される場合は、十分にこちらでの情報を提供しながら、良い状況となることを確認していきたいと思っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護など個人情報の取り扱いは職員全員に注意を促し、実践している。記録などの開示に関してはご家族の許可があれば、必要に応じて開示するつもりである。	○ 今後も継続して、個人情報の取り扱いを守り、守秘義務に徹すること。一人ひとりのプライバシーを守る努力をしていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症ケアの原則であり、常に寄り添い関わりながら、本人の思いに気づく努力をし、可能な限りご本人の思いに沿った生活をしていただきたいと思っている。	○ 今後も常にご利用者本位に考えながら、ご本人の思いに寄り添っていければと思っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな行事の計画は別として、その日その日の気分でゆっくと、その日の暮らしを支援するように努めている。	○ 今後もご利用者一人ひとりの思いを大切にしながら、関わらせていただこうと思っているが、中にはその人の思いに沿った生活をしていただくと、一日中動かない方がおられるので、状況を判断し、その方にとって良い状況を考えていきたいと思っている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	女性、男性を問わずずっと本人の好まれるおしゃれはし続けていただきたいと思っている。美容院などは本人の好まれる所へお連れしている。	○ 今後も継続して本人の希望を取り入れていきたいと思っている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎回の食事作りに参加は出来ないが、ご本人の自主性に期待しながら日々の関わりから役割意識を持っていただけるようになっていく。メニューによっては全員がおにぎりや、サンドイッチ、巻きずし等を作ったり出来るように援助している。	○ 今後も自然な形で家事や生活行動を楽しみながらご本人の能力に合わしていただこうと思っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在お酒やたばこを希望される方はおられず、その他の嗜好に関しては一人ひとりの好みを取り入れている。	○ 今後も同様、嗜好に関してはご本人の希望をとり入れていきたいと思う。ただ以前と同様たばこに関してのみ今後吸われる方が入居されても管理させていただきたいと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用しながら、ご本人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導に努めている。	○	今後も継続してトイレ誘導時の声掛けもご本人のプライドを傷つけないよう留意し、失敗されてもさりげなく交換し、保清面に留意。便秘対策などもすぐ薬に頼らない援助をしていこうと思っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在、隔日に入浴されているが、原則は希望されれば毎日でも対応している。時間も午後から寝までの時間に本人の希望を取り入れている。時々はディサービスの大きなお風呂を利用し温泉気分を味わっていただいている。	○	今後も同様にご利用者の希望に沿っていききたいと思っている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息と起きておられる時間のメリハリをつけながら、必要に応じて休んで頂いている。個人個人違うので、休息の時間の設定は決めていない。	○	以前と同様、今後も昼夜逆転にならない様に注意すること。一日中寝て過ごすという事がないように、注意しながら本人に合わせた休息をとっていただけるように援助したいと思う。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	常にご利用者に職員は関心を持ち、ご本人が何を求めているか気づくことが重要であると思う。そしてご利用者を知り楽しいことを見つけ出す努力をしている。	○	現在、幸いにも趣味を持っておられるご利用者が多くいらっしゃるの、その力が少しでも継続できるように支援していこうと思っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在3名が財布を所持されているが、金銭管理としては援助が必要な状態な方ばかりである。自分の好きなものを自分のお金で買えるように可能な限り援助していこうと思っている。	○	金銭管理が自立されている方はおられない状況であるが、自分の好きな物を買えるような支援は今後も必要であると思う。買い物などに一緒に行った際はご本人の希望を取り入れていきたいと思っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り外出の機会は多く作っていききたいと心がけている。	○	今後も可能な限り外出の機会を多く持ち、車椅子の方も積極的に外出をしていききたいと思っている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一泊旅行、もしくは日帰り旅行を来年計画予定。氷上町へのコスモスピクニックや大野ダムへお花見に外出出来た。出来る限り積極的な外出に努力している。近場であれば、知人のお見舞いなど希望時は外出支援をしている。	○	現在入居中のご利用者は旅行や行きたい所を我慢して、あきらめておられる部分もあると考えられる。来年度はそんな思いを払拭して可能な限り行きたい所へ行ける支援をしていきたいと思っている。

ハーモニーグループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は各居室に電話線を引いてあり、希望があればいつでも電話機を設置して頂いている。現在は1名の方が使い慣れたダイヤル式の電話機を置かれ、利用されている。外部からの電話はいつでも取り次いでいる。希望があればかけていただいている。	○	今後も通信に関しては見守りながら可能な限り自由にしていただこうと思っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定なくいつでも来ていただけるように伝えている。来ていただいたらご利用者の居室でお茶をお出し、ゆっくりと話をさせていただいている。	○	今後もいつでも面会して頂けるように働きかけること、そして来ていただいたときに、職員が気持ちの良い対応をするように心がけていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。	○	今後も身体拘束は行わない。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないことを原則にしながら、見守りの人手が一時的に手薄になった場合のみ事故防止の為ガード番というセンサーを取り付けている。	○	今後も出入りは自由にしていただき、日中は鍵はかけない方針である。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にさりげなく見守りはさせていただきながら、状態の把握に努めている。夜間も必要時と23時・2時・4時の定期巡室を行い、状態観察の記録をしている。	○	今後も常に見守りをしながら夜間も随時見守りをし、事故防止に努めていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の物品が何になるのかわからないのが、現状であるが可能な限り、ご本人の持ち物は居室に置いていただき、常に見守りながらその都度対応させていただいている。	○	あらかじめ、危険と分かっているもの(刃物類)に関してはご利用者の状態に応じて考慮。マッチやライターに関しては管理させていただくつもりである。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	会議等の度に常に危機感を持って業務を行うことを常に職員に言わしていただいている。又緊急時マニュアルを理解出来るようにしっかりと時間をとって勉強会が出来ていないのが反省点である。救急講習会は消防署から来ていただき施設で実施。	○	誤嚥しやすい方がおられるので、吸引機の設置や掃除機の先細を手洗い所に設置。今後早急に事故防止の勉強会をしたいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	5/22救急救命講習会実施。心肺蘇生法とAEDの取り扱い方を職員とご利用者、地域の方を含め約60名の方が参加。	○	今後も定期的に緊急時の勉強会を実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年と同様、施設が川のすぐそばにあり、台風時の危機感を持っている。23号台風を教訓に早めの対応を心掛けている。2階への避難と運営推進会議では地域の方へ協力を依頼している。	○	地域の防災訓練には必ず、毎年参加させていただいている。今後も油断せず。常に危機感を持って、施設としてやるべき対応はしておくことを心掛ける。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	常にご家族とは連絡を取り合いながら、何かあればすぐに報告させていただき、予測される事があればご家族の了承のもと対応させていただき、危険回避をしている。しかしながら制限が多くならないように気をつけている。	○	認知症のお年寄りをお預かりしている点でも、リスクが高い事を認識しながら、職員一人ひとりが、危機感を自覚しながら制約のない生活を援助出来るように今後も努力したいと思っている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルサインのチェックを行い、普段と違う状態であれば、すぐに看護職に報告。状態に応じて看護職はすぐ医師に連絡出来る体制である。	○	看護職が必ず、勤務できるように配慮。もし不在の時は2階のディサービスよりの応援体制あり。介護職も観察の目を持ち、何か異常に気付いた時の報告を忘れないことを今後も徹底していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者一人ひとりの薬リストの使用は継続中。薬が変更になった時や、増減したさいは必ず、連絡帳に記載し職員に伝達している。	○	今後も薬に対しての情報はしっかりと全員に知っていただく努力をすると共に、薬を飲ますときの確認と責任を自覚するように職員に指導していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘傾向の方が多いため、日頃から、繊維の多い食べ物や、水分補給、乳製品の摂取、運動などに心がけている。状態に応じて下剤も使用している。	○	今後も便秘時にすぐに薬に頼る事無く、食事面、運動面で考慮しながら便秘防止に努めていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	現在、歯槽膿漏で歯茎の腫れが出現しやすい方には、毎食後の歯磨き、その他の方は朝と眠前の2回、口腔ケアを施行。昼食後はうがいをしていただいているが、抜ける事がある。義歯の方は眠前にポリドントにつけていただいている。	○	やはり、毎食後の口腔ケアが望ましいと思いつながら、昼が抜ける事が多い現状を反省し、毎食後の口腔ケアに努めていく。

ハーモニーグループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在、ご利用者、皆様が食欲低下はなく、しっかりと食べて頂いている。1名誤嚥しやすい方には、とろみをつけ、刻み食として全量食べていただいている。水分量などは把握するために排泄チェック表に記録している。	○	今後も食欲が落ちた時には原因を把握し、食事量、水分量の確保に努めていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事前や排泄後、外出後の手洗いの励行。手拭きはペーパータオルを使用。インフルエンザに対しては予防注射の実施。感染症マニュアルの作成。	○	マニュアルに沿って感染予防に努め、基本の手洗い、清潔、うがいを実施継続していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、買物する事により、必要以上の買い置きをしない。残りものは残さず処分していく。布巾類は毎日ハイター消毒後専用の洗濯機で洗濯し専用の乾燥機で乾かしている。	○	今後も衛生面には最大の努力をし、食中毒予防に努める。又引き続き食事担当者の健康管理にも留意していき、下痢などの症状や手指に傷がある場合は交替していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	工夫は特にしていないが、常に開放的に入りやすい玄関である。	○	水彩画の得意なご利用者がおられ、展示して来設者に見ていただいている。もっと玄関を何か有効利用したいと思っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔第一とし、不快な臭いのないように努めている。トイレ等共用スペースには常に季節の花を飾り、玄関には舞鶴の四季折々の写真を季節ごとにボランティアさんが取り替えて下さっている。	○	今後も清潔第一に、不快感を感じられない様に努力しながら左記の事を継続していきたいと思っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在一人で過ごせるスペースは居室しかないが、利用者同士で過ごせるスペースはあり、空間づくりの面で今後の課題である。	○	ひとりで居心地の良いスペース作りを考えていながら実施できていないため、今後職員で話し合いながら、来年度の課題にあげたいと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	かのような限り、ご自分の今まで使っておられた家具や愛用品を持ってきていただいている。	○	今後も部屋の模様替えなどをご利用者と一緒に考えご家族にも協力していただきながら少しでも居心地の良い居室作りを目指していきたいと思っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気栓は常に作動している。不快な臭いはないように常に清潔を心がけている。温度もその時の気候に応じて調節、対応している。	○	今後も不快な臭いや、不快温度に気をつけ、調節していきたいと思っている。毎日の掃除や、汚れたらすぐ掃除し清潔な施設作りに努力していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、必要な個所の手すりの設置。浴槽の滑り止めマットの使用。浴室でのすべり転倒事故は一度もない。	○	今後も状況を把握しながら、安全対策が必要と思われたらすぐ解決方法を考え対応していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	昨年と同様常に見守り、わからない部分への手助けをする事で、混乱や不安は軽減されていると思っている。手を出しすぎず、さりげない援助を心掛けている	○	今後も関わりを密に持ちながら、ご利用者の力を引き出せる援助を心掛けていきたいと思っている。その為に勉強会などで学びながらご利用者を知ることの重要性を職員に理解して頂けるように努力していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	今年、裏庭に手作りの畑と、花壇が完成。四季の花や、野菜の収穫を楽しんで頂いている。	○	今後も花や野菜を植え続けご利用者と一緒に楽しんでいきたいと思っている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ハーモニーグループホーム

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

音楽療法は継続して取り組んでいる。担当の職員の勤務の都合で毎日とは出来ていないが、時間があれば、他の職員も生活の中にお年寄り達の好きな歌を取り入れている。お年寄り達も歌が大好きで、童謡、懐メロ、軍歌、演歌などを口ずさんでおられる。トーンチャイムの取組みも時々行い楽器演奏を楽しんで頂いている。